

自然史 かわらばん No.9 2016.4



1996年12月21日に輪島市（旧門前町黒島）の海岸に漂着したナガスクジラの骨格標本

第20回企画展 開催中 「日本海の生きものと環境 一鯨・魚・蟹・海老・烏賊・貝ほかー」

【場所】 県立自然史資料館 2F企画展示室 【期間】 平成28年1月16日(土)～5月29日(日)

太平洋の縁海である日本海は、アジア大陸と日本列島に囲まれ、対馬・津軽・宗谷・間宮の4つの海峡で他の海とつながっています。対馬海峡からは、黒潮を起源とする暖水が流入し(対馬暖流)、これが日本海の南半分の表層を暖めています。一方、水深300m以下の深海域には、冷水の塊が常に存在し(日本海固有水)、水温は0～1℃と低く保たれています。また、沿岸部に広がるガラモ場やアマモ場などの藻場、海上を漂う豊富な流れ藻は、様々な生き物の産卵場や保育場になっています。このような独特の環境が、日本海特有の生物相を形成してきました。私達が普段口にする海の幸や最近話題になる深海生物にも、日本海の環境が少なからず関係しているのです。

魚類では、対馬暖流が流れる表層には、ブリやクロマグロなどの暖水性の種類が回遊しています。能登半島沖や富山湾では、質の良いブリがたくさん獲れることで有

名ですが、これは産卵前のブリが東シナ海などにある繁殖場に南下する際に能登半島にぶつかり、富山湾に大量に入り込むためです。日本海固有水が占める深海域には、マダラやハタハタなどの冷水性の種類が生息しており、能登半島沿岸部の藻場がそれらの主要な産卵場や保育場の一つになっています。

クジラ類は、豊富な動物プランクトンや小魚を求めて日本海にやって来ます。一部のクジラは、出産や子育ての場所として、また回遊ルートの一つとして日本海を利用していると考えられています。日本海からは26種の記録がありますが、漂着または混獲の例が多いのは、カマイルカ・ミンククジラ・オウギハクジラなどです。1996年には、輪島市の海岸に体長15mのナガスクジラ(若い雄)が漂着しました。その骨格標本は、日本海にナガスクジラがいることを示す重要な証拠となっています(写真)。

最近、リュウグウノツカイやダイオウイカといった深海生物の発見が相次ぎ、話題になりました。これには、ニュースに取り上げられたことで漁師や住民など様々な人の目に止まるようになったという背景がありますが、それを差し引いても発見例が増えた要因や、本当に個体数が増えているのかについては、よくわかっていません。ただ、日本海で発見例が多いのは、対馬暖流などに乗って日本海に入り込んだと考えられるこれらの深海生物が、表層を泳ぐ間に衰弱し、北西の季節風によって沿岸部に追いやられ、見つかっているのではないかと考えられています。

他には、ズワイガニやベニズワイガニ・ホッコクアカエ

ビ(甘エビ)などの甲殻類や、エッチュウバイ・カガバイなどの貝類が、日本海の海の幸としてよく知られています。いずれも、日本海固有水が占める深海域に生息する冷水性の魚介類です。北陸地方では、若狭湾から能登半島・富山湾にかけて、これらの魚介類の漁場が近いため、かご漁や底引き網・刺し網などの方法で多く漁獲され、新鮮な状態で味わうことができます。

日本海は、古くから北陸に住む私達の暮らしや文化を育んできました。そんな身近な存在である日本海とそこに暮らす生き物たちを改めて見つめてみませんか？

(嶋田敬介)

今年の
ニュース

能登町に漂着した ダイオウイカ

2016年1月17日、鳳珠郡能登町の赤崎海岸にダイオウイカが漂着しているのが見つかりました。地元住民らのごとく海洋ふれあいセンターに連絡し、坂井恵一博士らにより同センターに運ばれ、同定・計測作業が行われました(写真)。外套膜の長さは1.7m、触腕がちぎれていたため全長は約4.2mでしたが、日本海で見つかるダイオウイカとしては大型の個体であると考えられます。これが石川県内における今年初のダイオウイカの記録になりました。協議の結果、この個体は自然史資料館で標本として保管することとなり、翌日18日に当館に移されました。

発見から既に1日が経過しており、このままでは腐敗が進んでしまうため、なるべく早くホルマリンに浸ける必要があります。国内におけるダイオウイカ研究の第一人者である窪寺恒己博士から助言を受け、19日、外套膜と頭・腕部を分離し、大型容器に入れてホルマリン漬けにしました。近所の鮮魚店(大辺一二氏)の協力により、解剖して取り出した内臓類も別の容器に入れ、ホルマリン



能登町に漂着したダイオウイカ(漂着数時間後に、のと海洋ふれあいセンターで撮影)。写真中のスケール(測量ロッド)の長さは100cm。

で保存しました。解剖の結果、この個体は卵巣を持っていたことから、メスであることがわかりました。

当館では、現在開催中の第20回企画展に合わせ、このダイオウイカの全身標本と、カラストンビなどの口器や軟甲、墨袋や卵巣などの内臓類の標本に加え、珍しいダイオウイカの卵の標本も展示しています。実物をその目でご覧ください。(嶋田敬介)



講座・イベント情報



第20回
企画展

「日本海の生きものと環境
一鯨・魚・蟹・海老・烏賊・貝ほかー」
会期：5月29日(日)まで

4月

■29日(金・祝) アンモナイトのレプリカ作り
10:00~12:00 / 館内 / 小1~大人 / 16名 / 4月1日より申込開始
14:00~16:00 / 館内 / 小1~大人 / 16名 / 4月1日より申込開始

■30日(土) ミクロの化石をみつけよう
10:00~12:00 / 館内 / 小1~大人 / 16名 / 4月2日より申込開始
14:00~16:00 / 館内 / 小1~大人 / 16名 / 4月2日より申込開始

5月

■1日(日) バックヤードツアーー資料館の裏側をのぞいちゃおうー
13:30~15:30 / 館内 / どなたでも / 45名 / 4月3日より申込開始

■21日(土) 川の狩人ヤマセミを観察しよう
10:00~12:00 / 野外 / 小4~大人 / 20名 / 4月23日より申込開始

第21回
企画展

「地中に咲いた結晶
～北川隆司鉱物コレクション～」
会期：6月25日(土)～2017年1月8日(日)

7月

■2日(土) 増穂ヶ浦海岸で植物観察会
13:30~16:30 / 野外 / 小4~大人 / 15名 / 6月4日より申込開始

■16日(土) 夏の夜の昆虫採集会ーライトトラップをしかけようー
19:30~21:00 / 野外 / 小3~中3 / 16名 / 6月18日より申込開始

■23日(土) 植物の色の秘密をしらべよう
10:00~12:00 / 館内 / 小3~小6 / 16名 / 6月25日より申込開始

■24日(日) プリティカムムシ、ミイラ復活大実験
13:30~16:30 / 館内 / 小4~高3 / 10名 / 6月26日より申込開始

■30日(土) 昆虫標本作製講座ーチョウ・トンボ編ー
10:00~15:00 / 館内外 / 小3~中3 / 16名 / 7月2日より申込開始

活動紹介 植物収蔵庫の標本配架作業

自然史資料館では、いろいろな自然史資料を収集・保管しています。中でも特に点数が多い資料は20万点以上にもなる植物標本で、合計390m²の広さの植物収蔵庫に収められています。収蔵庫内には、標本を入れるための標本棚が所狭しと並んでいます。標本棚は全部で200本あり、標本は科ごとに分類されています。さらに科以下は、種名(学名)のアルファベット順に配列されています。標本棚の標本は種ごとにまとめ、カバーに入れて収納します。種まで同定できない標本は、属や科ごとにカバーに入れます。このように標本を整理して配架することによって、利用者は必要な植物について標本を探しやすくなります。

標本の配架作業には植物学の知識が必要なので、以

前で紹介したように(自然史かわらばん No.6)、専門ボランティアが分類群別に分担して行っています。現在約12万点の標本が標本棚に収められているので、収蔵資料の6割がようやく配架できたこととなります。(中野真理子)



種や科などの仲間別にカバーにはさんで収納する。これらのカバーは「ジナスカバー」という。

佐野修さんが遺したもの



水生生物について解説する佐野さん(中央)

昨年の今頃は、当館の協力専門員の佐野修さんと、現在開催中の第20回企画展の準備を進めていました。佐野さんは、金沢市出身、日本大学水産学科で学んだ後、(株)金沢水族館、いしかわ動物園での勤務を経て、平成18年から当館に勤務されていました。この地域の海から川まで

の水生生物を知り尽くし、広い人脈から国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー、環境省希少野生動物種保存推進員、日本セトロロジー研究会事務局長、石川県淡水魚類研究会代表、石川県内水面漁場管理委員会委員などを任せられ、自然環境と野生生物の保全に大きく貢献されました。また、1996年に輪島市門前町にナガスクジラが漂着した時には、佐野さんが先頭に立ち、日本海側では唯一とも言える貴重な骨格標本の作製に尽力されました。

当館では、動物分野責任者の学芸員として、標本資料の収集と整理に精力を注がれました。佐野さんが関わった資料は膨大で、現在でも様々な場面で利用されています。企画展や特別展の開催においては、「トキがいたあの頃」、「人とトンボ展」、「浅野川の自然」などを企画され、好評を得ました。他にも、普及講座や地元小中学校への出張講座など、教育活動の先頭にも立っていただきました。

残念ながら、佐野さんは昨年(平成27年)7月24日にこの世を去られましたが、遺していただいたものは、私たち多くの関係者の心の中と当館の収蔵庫でいつまでも輝き続けることでしょう。(水野昭憲)

8月

- 6日(土) ペットボトルで顕微鏡ができちゃうの?
13:30~15:00 / 館内/小1~小6 / 30名 / 7月9日より申込開始
- 7日(日) ペットボトルで顕微鏡ができちゃうの?
13:30~15:00 / 館内/小1~小6 / 30名 / 7月10日より申込開始
- 20日(土) 昆虫標本作製講座 一甲虫編ー
13:30~15:30 / 館内/小3~中3 / 16名 / 7月23日より申込開始
- 21日(日) 自然史講演会「大地の結晶のふしぎ」
10:00~12:00 / 館内/どなたでも / 100名 / 申込不要
- 21日(日) 押し葉で植物ずかんをつくる
13:30~16:00 / 館内外/小4~高3 / 20名 / 7月24日より申込開始
- 27日(土) 恐竜博士養成入門講座 一実物に触って学ぼうー
10:00~12:00 / 館内/小1~小3 / 30名 / 7月30日より申込開始
- 27日(土) 恐竜博士養成初級講座 一実物に触って学ぼうー
14:00~16:00 / 館内/小4~中3 / 30名 / 7月30日より申込開始
- 28日(日) 尾小屋鉱山でお宝発掘ー鉱物標本作製教室ー
10:30~15:30 / 館内外/小1~中3 / 20名 / 7月31日より申込開始

9月

- 11日(日) 大人のための植物学講座
9:30~12:30 / 館内/高1~大人 / 20名 / 8月14日より申込開始



■ 表記は、実施時間/活動場所/対象/定員/申込期間の順です。

■ 電話でお申し込みください。

■ 詳細は、当館にお問い合わせいただくか、ホームページ(HP)をご覧ください。

■ 申込 TEL 076-229-3450

■ 当館 HP
<http://www.n-muse-ishikawa.or.jp/>



第21回企画展 「^{はな}地中に咲いた結晶 ～北川隆司鉱物コレクション～」

【場所】 県立自然史資料館 2F企画展示室 【期間】 平成28年6月25日(土)～平成29年1月8日(日)

鉱物とは、基本的に天然に産出し、一定の化学組成を持つ、無機質な固体のものを指します。ガラスなどの非晶質なものや、人工的に作られるもの、活動中の生物が作り出すものなど(例:歯や骨)は、鉱物に含まれません(水銀など、一部例外もあります)。また、鉱物や自然界の他の物質(生物の遺骸や非晶質なもの)が集合してできたものが、岩石です。

鉱物はその美しさと希少性から、装飾品や宝石として太古の昔より人々を魅了し、富や権力の象徴にもなってきました。また、その神秘性から、宗教的な儀式などに使われる道具にも用いられてきました。さらに、工業製品を作るために利用されるなど、今日に至るまで人間社会にはなくてはならない物質でもあります。

今回の展示では、元広島大学教授の故北川隆司博士が生涯にわたり収集された標本の内の200点あまりを主とする鉱物を展示して、その魅力を紹介します。自然が生み出した鉱物の色や形の美しさを、多くの方々に実感していただきたいと思います。また、鉱物が持つ特性から引き起こされる、不思議で面白い現象を体験していただきたいと思います。

企画展関連行事として、8月21日(日)に自然史講演会「大地の結晶のふしぎ」を開催します。北川博士に師事されていた、大阪大谷大学准教授の地下まゆみ博士をお招きし、北川先生との鉱物採取の思い出話を取り入れながら、鉱物の面白さについてお話ししていただきます。簡単な鉱物実験も実施する予定です。また、8月28日(日)には、石川県立尾小屋鉱山資料館(小松市)において、鉱物標本作製教室を実施する予定です。ぜひご参加ください。

(桂嘉志浩)



紅鉛鉱

利用案内

■ 開館時間：午前9時～午後5時
(入館は4時30分まで)

■ 入館料：無料

■ 休館日：12月29日～1月3日

■ 駐車場：完備
(大型バス駐車可)

交通案内



周辺地図(拡大)



【バスをご利用の場合】 金沢駅東口バスターミナル

- 6番乗り場
『95 北陸大学太陽が丘ゆき』または『95 北陸大学薬学部ゆき』
→【北陸大太陽が丘下車】→徒歩約10分
- 7番乗り場
『12 湯涌温泉ゆき』または『12 北陸大学薬学部ゆき』
→【銚子口下車】→徒歩約10分
『12 北陸大学太陽が丘ゆき』→【北陸大太陽が丘下車】→徒歩約10分



案内看板

石川県立自然史資料館